猿新聞

編集・発行
山村　準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

『動物の保護・管理』

江戸時代から、鳥肉は一般に食べられていましたが、野生動物の肉は仏教的な関係からはタブーで、獣肉はあまり食べられることがありませんでした。

それでも嗜む程度には食べられていたとのことです。兎を一羽と数える、というのは鳥のつもりでという名残りなのだと思います。

タブーとはいえ、庶民が滋養を付けるために猪のことを「山の鯨」と称して 隠れて食べていました。

江戸時代、獣肉を食べることを『薬食い』といい、主に健康目的で食べられていました。

江戸時代は獣肉を食べる事を禁止されていましたが、何時の時代でも法には抜け道があるもので、市中には獣肉専門店までがあり、猪、鹿、狐、ウサギ、カワウソ、狼、熊、カモシカなどが出されていたそうです。

結果的にこの狩猟が、人と野生動物とのほどよいバランスが保たれていたように思います。

戦後、動物愛護の観点から国策で捕獲は禁じられ、野生動物は増加の一途をたどりつつ現在に至っています。

個体数の増えすぎは決して動物愛護には繋がりません。

野生動物の適正な保護管理が、野性動物の愛護に繋がるということを忘れてはなりません。

モンキードッグ 複数追払い

モンキードッグクラブ代表　達（つじ）　敏也

先日、宇陀市竜口地区において、モンキードッグが４頭集合しました。

サルたちは最近このあたりにとどまり、悪さを続けています。

この地域にはモンキードッグが２頭いますが、あまりにもサルの滞在が長いので、複数で追い払おうと言うことで「助っ人」を２頭呼んで早朝より４頭が集合したのでした。

あいにく、その時は発信機で探すが発見できずに「ウロウロ」していたところ、偶然ハナレサル一匹を蕨（わらび）付近で見つけました。早速犬を放すが、やはり４頭一度にというのは問題がありました。

犬同士が争いをしそうなので、それを抑えるだけで、サルを追うどころではなく、何やかんやしているうちに、サルは我々の難儀を尻目にどこかへ行ってしまいました。

これは、犬たちのコミニケーションの積み重ねが解決する問題だと思いますが、まだまだこのような経験を重ねなければならないと思います。

サルたちにとっては一頭で「ワンワン」と吠えられるより、数頭が追ってくるほうが、「これはヤバイ！」。と思うでしょう。そのためには、犬達の日頃の交流が大事だと思います。

飼い主もそれぞれ忙しいので、なかなかそういった機会を頻繁に持つことはできません。

これが、今後の大きな課題だと思いますが、折を見てこのような経験を重ねていきたと思っています。

犬を放すことに慣れていない飼い主も、犬の動きがお互いにわかるし、追う意欲の薄れた犬も触発されるかもしれないし、犬達の相性もわかります。

特定のエリアを、モデル地区として、地域の理解、了解を得た上で複数追い払いの取り組みを、試みとして進めていきたいと思っています。

写真＝仲間達です。

サルの群れを追って半年

名張市農林振興室　獣害対策指南員　屏賀（びょうが）　豪才（ひでたか）

皆さん。始めまして。

私は今年の４月から名張市の獣害対策指南員として主にサル群の追跡調査に携わっています。

私が名張市に越してきて約２年半が経ちました。

自分の食べる分くらいは自給しようとお米つくりをしているのですが、去年は刈取り前にイノシシに入られてほぼお米は全滅でした。住まいも山手にあったので軒につるしたたまねぎを持っていかれたり、畑もシシ、シカ、サルの被害を受けていました。農業とまでいかなくても、自分の分だけでもと思っていたのに獣対策をしないと自給ができない。とても深刻な問題でした。

こうして、仕事や田畑のかたわら獣への対応を自分でできるようになる、ということが避けられない私の今年の目標の一つになりました。そんな時に縁あってこの獣害対策の仕事に就くことになりました。

始めの２～３ヶ月は自身が被害を受けていたこともあり、前のめりで、「ゆるさん」っと、サルを見つけては山に走り入って追い回していました。

今ではどう追えばよいのか、追う必要があるのか無いのか、追ってはいけないのか、その場の状況を判断できるようになりました。

ほぼ毎日群を追っていると群が動いてゆく理由がなんとなくわかってきます。動物たちの行動の一番の理由は食べ物です。好き嫌いもあるし、食べ物が豊富にあるなら、贅沢にもなります。選り好みするというか。サルは特にそれが顕著なように思います。夏、７月から８月は畑に現れてはかぼちゃ、とうもろこしを荒らしまわっていました。

好きなものが成っている時期はひたすらそればかりを食べて名張じゅうの畑を日に何箇所も巡ります。人に近いからなのか、「お馬鹿」なところも人に似ています。欲に駆られて自分の身を危険にさらすようなことがあります。10月は柿、栗を食べていました。大きな木に数等のサルが群がっているところに、花火を打ち込むととりあえずは逃げてゆきます。ところが、よくよく見てみると、まだ居ます。ちょっと太い枝の向こうに一匹。でもはみ出て見えています。そこにめがけて再度花火を打ち込むとやっと逃げてゆきます。人にも花火にも慣れてきたということもあるでしょう。聞いた話では、一度檻にかかった同じサルがまた檻に入ったこともあるそうです。

そんななか最近、サルの動きに変化があります。これまでならもっとひとつの場所に群で留まっていたはずですが、長居せずすぐに次の場所に移動してゆくことがあります。

また、まだ熟れていない未熟なかぼちゃや栗、柿を食べる姿をよく見ます。これは人間の側で有効な対策を講じた結果が出ていることの表れでもあるようです。畑を柵で囲い、群を皆で追い、訓練を受けたモンキードッグが出動する。

私個人としては獣害対策に対してこう思っていたし今も思っています。

私が食べるために自分の田畑は自分で守る。

いま、サルの追跡調査をして、位置情報をみなさんに送り、荒らされた畑でどんな対策ができるか相談をお受けしていてこう思っています。初めて獣に向き合ってみようという方がスムースに取り組める、そして無理なく日々の当たり前のこととして継続してゆける、そんなことのお手伝いができるような仕事ができればよいなと。

冬の獣害対策

冬は、野生のサルが特定の農地や集落に出没しやすくなります。

冬から早春にかけて、森林の中のサルの餌が乏しくなるため、サルが他の季節より大胆に農地や集落に出没します。

さらに、日当たりがよく暖かい場所や餌が簡単に入手できるような特定の場所を中心に生活するようになります。

この時期、農地では冬野菜やかんきつ類などが実っており、収穫前の作物のほか、収穫時に選別して圃場周辺に放置した野菜くずや廃果をサルが狙います。また、集落内に多数存在する収穫しないカキやユズの実などもサルの餌になります。

「捕られても怒らない」ものが沢山あり、これがサル達の餌付けになっていることを、深く反省しなければなりません。

冬場は小屋などに保管してあるものにも手を出します。

戸締まりにも十分な配慮が必要です。

冬場の対策５箇条

■稲刈りの終わった田は、できるだけ早く耕す。（２番穂を出さない）

■生ゴミや野菜くずを農地や山際に捨てない。

■収穫の終わった野菜などの残さを畑に残さない。

■カキやクリ、柑橘類の実を収穫せずに放置しておかない。

■山際や田の畦の草刈りをする。

編集後記

今回は、パソコンの故障で休刊を覚悟したのですが、皆さんのご協力のお陰で無事発行することが出来ました。

ご寄稿いただきました三氏には心より感謝申し上げます。

今後ともご協力の程宜しくお願い申し上げます。

寄稿

名張市会議員　常俊　朋子

獣害対策５カ条

今日は。つねとしです。

９月１７日「野生獣による農林産物への被害について考えるフォーラム」が三重県志摩市の「合歓の郷」で開催されました。名張市からマイクロバスが提供され、獣害対策に関わる皆さんと市職員が参加。　これは、三重県の獣害による被害が年々増加の傾向にあり、全国でもワースト１０に入るという不名誉な状況の中、名張の行政と市民との連携を進めていく上で大変有意義な取り計らいであり、宇陀市との広域鳥獣害対策に取り組んでいる現状の中でも有効だったと思います。その中でも、獣害対策５カ条の、**「エサ場を無くす・隠れ場所を無くす・出来る限り正しく囲う・追い払う・適切に捕獲」**ということを徹底していくということがキーポイントだと思います。そして、これは私たち大人だけの問題ではないことを認識して、子ども達に山の暮らし、里山の役割、野生動物との共存など、その意味や自然とのかかわり方をしっかりと伝え、世代間の共有の課題としていくことが大切だと思います。

一口メモ

遊動生活

サルは昼間、群れをなして仲間からはぐれないように固まりながらも適当に散らばり、歩きながらを採食し、暗くなると適当な林の木の上で眠ります。明るくなると、しばらくは互いに毛づくろいをしていて、その後うまい食べ物がありそうな場所を移動しながら、採食して歩きます。そして暗くなるとその辺りの林で眠り、次の日はまた違う場所へと移動します。群れごとにほぼ定まった行動域があり、毎日その中の違った場所へ移動して歩き、泊まる林も次々と変えていきます。赤ん坊を産んでも、赤ん坊は親の腹の下にすぐしがみつくことができるので、母親は赤ん坊を産んだその日から、赤ん坊をお腹にぶら下げて、皆と一緒に移動して歩きます。赤ん坊を育てるための巣は作りません。

このようなサルの生活のしかたを、遊動生活と呼んでいます。サルは木の実が豊かに実る林を遊動します。だから森林が伐採されるとサルはそこに住めなくなってしまいます。